

大分大学における科学研究費補助金による研究活動の不正行為について

1. 案件概要

平成24年8月、大分大学に同大学医学部産科婦人科学講座 高井 教行元講師の論文に画像重複の疑いがあるとの公益通報があった。その後、高井元講師本人からも自身の論文で画像重複がある旨の自己申告があった。

これを受け、大学が調査委員会を設置し調査を行った結果、高井元講師が自己申告した論文22編ならびに高井元講師が著者（共著含む）のその他の論文77編のうち19編の論文において実験そのものが存在したことを裏付ける資料が無く、客観的な証拠が得られないことから、ねつ造が行われたと判断された。

また、実験の実施は確認されたが、資料と論文に齟齬があることから2編の論文で改ざんが行われたと判断された。

2. 調査経過等

平成24年11月30日	大分大学において研究不正調査委員会を設置。（以降、平成26年12月までに委員会を計7回開催）
平成27年 2月27日	ホームページにて調査結果を公表。
平成27年12月14日	研究不正調査委員会の調査報告書が承認された。

3. 調査結果の概要

【不正行為について】

高井元講師が著者である論文19編（筆頭18編、責任著者1編）において、実験そのものが存在したことを裏付ける資料が無く、客観的な証拠が得られないことから、ねつ造が行われたと判断された。

また、実験の実施は確認されたが資料と論文に齟齬があることから、高井元講師が筆頭著者である2編の論文で改ざんが行われたと判断された。

大学が論文の研究における役割、実験ノートや資料について調査を実施した結果、不正行為は全て高井元講師単独によるものであり、他共著者は補助的役割でしかなく不正行為は認められないと判断した。

【研究計画調書及び研究費の支出について】

高井元講師を研究代表者とする科学研究費補助金のうち、これらの論文が研究実績報告書または研究成果報告書に含まれたものは3課題であり、不正行為と直接関係のある支出はなかった。

(関係研究課題)

① ・ 研究課題名 婦人科悪性腫瘍における Ets ファミリーの発現と機能の解析

・ 課題番号	1 6 7 9 0 9 6 1		
・ 研究種目	若手研究 (B)	配分額	
		平成 1 6 年度	2, 9 0 0 千円
		平成 1 7 年度	7 0 0 千円
		計	3, 6 0 0 千円

・ 不正行為と直接関連がある支出 なし

② ・ 研究課題名 エピジェネティックスにより制御された婦人科癌の新しい癌抑制遺伝子の発見

・ 課題番号	1 8 5 9 1 8 4 0		
・ 研究種目	基盤研究 (C)	配分額	
		平成 1 8 年度	2, 9 0 0 千円
		平成 1 9 年度	9 1 0 千円
		計	3, 8 1 0 千円

・ 不正行為と直接関連がある支出 なし

③ ・ 研究課題名 PLK を標的とした婦人科癌の治療とマイクロアレイによる抗癌作用機序の解析

・ 課題番号	2 1 5 9 2 1 3 9		
・ 研究種目	基盤研究 (C)	配分額	
		平成 2 1 年度	2, 8 6 0 千円
		平成 2 2 年度	9 1 0 千円
		平成 2 3 年度	6 5 0 千円
		平成 2 4 年度	6 5 0 千円
		計	5, 0 7 0 千円

・ 不正行為と直接関連がある支出 なし

4. 機関による措置

(1) 不正行為があったとされた論文の取り下げ

21編のうち13編は取り下げられ、もしくは取り下げ申入れ済であり、8編については高井元講師へ取り下げの要請を行っている。

(2) 機関における処分の状況

停職9ヶ月相当(平成27年2月27日)

※平成24年7月15日退職